
リハビリテーション天草病院だより

2018年10月

No. 88



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

障害者雇用水増し問題に思う

医療法人敬愛会理事長 天草 大陸

私共の法人(職員数約500人)でも真摯に正確さを期して取り組んでいる障害者雇用促進問題。障害者雇用は法律で義務づけられています。法定雇用率は2.4%。この障害者雇用の水増しが中央省庁で恒常的に行われてきたという話にならない話が明らかになりました。中央省庁で雇用する障害者は、合計で6,900人以上とされています。それが何と障害者でない人を3,460人も水増し報告していたのです。実際の雇用率は1.19%なのに2.49%と報告していたのです。更に驚くことは決して偶然とは思えない8割の省庁での不正報告。国家行政機関ぐるみの「嘘」であります。行政機関のみかと思いきや、立法、司法機関でも同じ操作が行われていたというのです。

「ずさん」な管理だっただけでは済まされない深刻な問題を含んでおります。

私は、この不正の報道がなされた時、これは中央官庁だけに限った問題ではないと確信しました。案の定、その後、都道府県や市町村でも不正が発覚しました。埼玉県でも越谷市でもと次々と。不正は底無しでした。埼玉県では県教育委員会が143人を水増しして、雇用率達成としていましたが、実際は1.66%であったと発表する始末です。教育機関までもが嘘をつくのかと唖然となるばかりです。

民間には不正を許さない。自分達だけは不正をしても法律を守っている「フリ」をする。「フリ」をする、つまり「嘘をつく」ことは、今回の問題に限らず、戦後、役所制度が再構築されて以来の悪慣行かと考えざる

を得ません。それにしても、雇用率問題が全国万遍なく不正慣行となっている事実は、その根の深さを物語ります。責任者・犯人は誰かと問われても長年続く不正慣行だけに捜し様がありません。犯人が「役所体質」であるからだと思います。この体質を変える妙薬は無いのでしょうか。マスコミは「責任者を処分せよ」と主張しますが、延々と続いてきた役所体質を処分する方法は一体あるのでしょうか。主要新聞の社説に目を通しましたが、役所体質に触れた主張・論調は見当たりませんでした。無理やり特定不可能な犯人を作り出し、その個人を処分すれば事たれりと甘く考えているのでしょうか。

マスコミは「森友・加計問題」では、各社競ってあたかも「偏執狂」のように報道合戦を繰り広げました。これでもかこれでもかという個人攻撃でありました。しかし、今回の「嘘つき問題」では、2~3回位は報道したものの後が続きません。沈黙を決め込んでいようにも思われます。何故でしょうか。この問題は、個人攻撃・追求・処分ではなく役所体質改善への鋭い切り込みが期待されているのです。場合によっては、日本国の有り様に大きく係わる問題であると思います。

「嘘つき問題」に対する即効薬はないにしても、早急に全役人を対象に「役人道德教育」を実施し、かつ、全国民に対しては、幼少時からあらゆる機会を利用した道德教育の徹底が必要であると思います。国の乱れを正すのは教育しかないーと従来から考えています。

医療相談室って何するの？

総合相談部 医療相談室長 小玉 康平

《医療相談室って?》

医療機関には、「医療相談室」や「患者支援室」等という名称の部門があります。その中で勤務し、入院・外来患者様の相談にのるのが医療相談員になり、別名は、メディカルソーシャルワーカー(MSW)と呼ばれています。

急なケガや病気で入院された患者様の不安や心配事の相談にのり、必要な支援をする仕事になります。また、経済的な問題から心理的な問題、退院後の生活に向けた支援もしています。自宅への退院の準備や療養型病院への転院、老人福祉施設や老人保健施設などへの転所など、医師の診断をもとに、患者さんやご家族との相談を重ね、連携する各機関と連絡を取り合い、よりよい生活を提案し、支援する仕事になります。

《当院の医療相談室の体制》

当院の1階には総合相談部という部門があり、その中に「医療相談室」と「居宅介護支援事業所 敬愛」という部署があります。

「医療相談室」には、国家資格である社会福祉士の有資格者6名と退院支援看護師1名が配属されており、計7名体制で患者様の相談業務を行っております。また、入院した患者様には、病棟専従の社会福祉士1名が担当につき、入院早期から退院まで患者様やご家族の相談業務にあたっております。

「居宅介護支援事業所 敬愛」には介護保険制度に精通した介護支援専門員(ケアマネージャー)が4名配属されております。

《当院の医療相談室の具体的な業務》

具体的な業務としては、以下のような内容が挙げられます。

- ・入院前の入院相談、医療費の説明、病院の概要説明
- ・介護保険制度の申請方法や利用方法
- ・退院後の在宅サービスや施設サービスの情報提供
- ・ご自宅近隣の居宅介護支援事業所の情報提供や介護支援専門員(ケアマネージャー)、介護サービス事業所との連絡調整
- ・身体障害者手帳・年金制度等の説明、手続きについての情報提供

《相談方法・相談時間》

- ・入院を希望される方

当院は、全床回復期リハビリテーションの病院になりますので、入院を希望される場合、厚生労働大臣の定めによる受け入れ条件を満たしていることが、原則として必要になります。当院への入院を希望される方は、まずは、医療相談室宛にご連絡ください。

- ・入院中の方

入院と同時に1名医療相談員の担当者がつきます。相談は無料になりますので、何なりとご相談ください。

受付時間 平 日 8:30~17:30

土曜日 8:30~12:30

電 話 : 048-974-1239(直通)

「2度目の天草病院」

川口市 小林 陽子

7年前、静脈洞血栓症、脳出血で高次脳機能障害になり入院。身体の不自由さはあまりなかったけれど、文字が書けないなど当たり前になって来た事が出来なくなったストレスと感情のコントロールがうまく出来なくなった事で、看護師さん達に迷惑をかけ大変だった事を思い出します。

そんな主人も障害者雇用で仕事に就くことができ5年。仕事にも慣れ、感情のコントロールも落ち着いてきて安心していました。その矢先、小脳梗塞になり緊急入院を経てまた天草病院にお世話になる事になりました。今回は身体(歩くこと)がメインの入院です。

退院後の目標、やりたい事、不安に思うことなどを聞いてもらい、患者一人一人の目標に向けてリハビリをやって頂いています。毎日3時間のリハビリの成果は大きく、面会に来る度に良くなっています。更にレベルアップを目指し、毎日の歩数目標を決め実行したり、鏡を見てリハビリでやった姿勢を確認したりと毎日充実した日々を過ごしているようです。レベルアップ歩行中には、看護師さん、リハビリの先生方、患者さん達とのコミュニケーションをとったり病室から見える富士山、スカイツリーを見たり、リラックスする時間を自分でも作り、穏やかに出来ているように見えます。楽しくリハビリが出来、気持ちに余裕を持てているのか、生活リハビリで苦手な手先を使った細かい作業にチャレンジをしたいと言って編み物男子になりました。

明るい病院内、リハビリ室、優しい先生方。

この良い環境の中、リハビリをし、入院前の生活が出来る身体に少しでも近づいて退院の日が迎えられたらと願っています。そんな退院の出来る日まで宜しくお願いします。

(投稿日 平成30年5月11日)

「出会えてよかった」

越谷市 伊達 久子

脳梗塞による左手足の後遺障害改善の為、急性期病院より転院しお世話になりました。杖を突かず歩ける状態ではありましたが、足が棒状で振り回している様な感覚でした。腕は常に重い石の入った袋をぶら下げている感じで、とにかく重くて重くてもぎ取ってしまいたい程でした。もちろん物を掴む、掴む、持ち上げる等は不可。5本指もしっかり開きませんでした。本当に改善するのか呑気者の私ですが不安一杯のスタートでした。

初回の治療は緊張の反面、その心地良さにすっかり寝入ってしまった様です。緊張を解きほぐしリラックスしてリハビリを受けられる様になったのは何気ない話題で楽しませてくださるリハビリの先生達との会話でした。若いスタッフさん達から元気を頂きました。又、動きを妨げている要因を丁寧に説明して下さり今どこを改善しようとしているのかがストレートに伝わり安心してお任せ出来ました。筋肉の名称や身体の仕組み等の説明もとても興味もて学ぶ楽しさも出てきてリハビリの励みと共に楽しみとなりました。地味な動作の繰り返しで小指が「動いた」と言っただけは歓声をあげ、昨日まで出来なかったことが「今日出来た」と言っただけは拍手をし、喜びと共にリハビリの効果を日々実感できる様になりました。歩いている様子を見るだけで動きを邪魔している要素を的確に指摘して頂い

た時は感激しました。本当に素晴らしいスタッフさん達です。研修もよく行われている様で全体としてのスキルアップを目指していることも頼もしく思いました。2ヶ月程の入院でしたが、左手に多少緩慢さは残るものの日常生活の自信は付きました。主治医の先生の適切なご指示の下での確なりハビリを施してくださいったりハビリの先生達、健康管理と快適な生活にご尽力下さった看護師さん達、皆様のお陰です。（投稿日 平成30年6月21日）

「有難う！」

春日部市 樋口 茂

今回、私は脳梗塞による左片麻痺になりました。それは5月13日夜、突然きました。後に家族から話を聞き呂律障害、体動困難になりS病院に行き直ぐに検査など行いましたが重度の意識障害や血圧低下などで十分な検査が出来ずICUに入り大きな酸素マスクや様々な管が体中に付けられ見るに耐え難い光景だった様です。私は数日間意識が戻らず寝たきり状態だったそうです。数日後、意識が戻り毎日検査を行い優先順位の高い治療が次々と始まりました。余談ではございますが私は約20年位前に狭心症を発症し心臓に疾患がありました。約4年位前に十二指腸潰瘍で胃に穴が開いてしまいました。今回、病気の治療は循環器内科にて心臓カテーテルによる血管の治療や左局部に心臓モニターを植込み、神経内科では頭などの検査を行い腎臓内科にて腎臓の検査をし、腎臓の数値が悪く一時は人工透析をする方向で進んでいましたが数値が少しずつ良くなりとりあえず透析は回避する事が出来ました。一つずつ治療を続けて行くと体に付いていた管が一本また一本と外れて行きましたが体に違和感がありました。体

の左側、特に足が動かないそれは脳梗塞による左片麻痺でした。直にリハビリを何処で行うか？S病院から天草病院を紹介されましたが何十人かの待ちの状態に入れるか心配でしたが運良く入院する事が出来ました。初めは本当に足が動く様になるのか？仕事の復帰は出来るのか？不安で不安で！リハビリにも身が入らない状態でした。ある日、妻からある一言をきっかけに気持ちがずっと楽になりリハビリに集中出来る様になり自分の足で一歩又一歩と介助がありながらでしたが歩ける様になりもう少し頑張ればもう少し歩ける様になるのではとリハビリの先生とお互いに話ながら毎日リハビリを行いました。リハビリの先生とは馬が合い世間話を言ったり冗談を言ったり気持ち的に余裕が出てきて課題をクリアして行き車椅子→歩行器→杖歩行と回復期内で目覚ましく回復して行き先生もビックリする程でした。もし、先生と出会ってなければここまで歩ける様になっていただろうか？天草病院の先生との巡り合わせが無ければ・・・全て運が良かったのです。また、天草病院の全てのスタッフの皆様に感謝感謝感謝です。本当に有難うございます。スタッフの皆様と退院してから外で私のもっともって回復した姿を・・・町で偶然出会えればと思っています。もしお見掛けした時は声を掛けますので驚かないで下さいね！入院生活約3ヶ月、一杯一杯お世話になりました。本当に有難うございました。最後に私は有難うと言う言葉が好きです。有難うと聞いたり言ったりお互いに笑顔になり元気になれると思っています。私は、有難うと感謝の心をいつも持っています。皆様も一言有難うと言ってみては？何かが変わるかも？私は色々な病気を患っていますが今回も有難うと元気一杯言っていると思います！本当に有難うございました。（投稿日 平成30年9月15日）

病院の療養環境整備について

リハビリテーション天草病院 事務長 大塚 尚行

当院では、患者さんに療養し易く明るい快適な環境を提供するために、平成27年12月から約3年の工事期間をかけ、東・北側建物の建替えを中心に、大規模なリニューアル工事を行ってきました。工事も順調に進み、当初計画どおり平成30年12月に全工程が完成する予定となりましたので、今回の工事によりリニューアルされた主な箇所や改善される点をご説明します。

【病棟の増改築と室料差額室について】

本工事着工とほぼ同時期に17床の増床が認められ、総病床数が154床から171床になります。現在、既に169床まで稼働しており、平成30年12月から全ての171床が稼働する予定です。今回、全病床の約7割を占める病室および病室周りの改築・改修工事を行い、それに合わせて全病床分の床頭台やテレビの入替えも実施し、アメニティの向上にも努めました。デイルームや廊下幅も広がるなど、全病棟が更に明るく開放的な環境となりました。

また、病床の配置を見直し、全病床が稼働する平成30年12月頃より室料差額室を個室のみに順次変更させていただき予定で考えております。患者さんやご家族にかかる経済的な負担の軽減を図りつつ、地域性や様々なご要望を踏まえ設備の更新を進めており、病院として日々努力している姿勢をご理解いただくと幸いです。

【リハビリ訓練スペースの拡充】

外来・通所リハビリ用として、メイン訓練室の床面積を約1.5倍の広さに増築し、新た

に言語療法室3室および多目的に活用する総合リハビリ訓練室1室を設けました。そして、入院患者さん用としては、既存の訓練室の他に、新たに作業療法を行うオープンスペースを設け、言語療法室も4室増やし全体で19室となるなど、ゆったりとした環境でリハビリ訓練に集中いただけるよう拡充を行ってきました。

【歯科診療室の全面リニューアル】

リハビリの効果を高めるには栄養管理も重要であり、当院は医科・歯科の連携により、「口から食べることの楽しみ」を与えられるよう口腔ケアや摂食嚥下機能療法に積極的に取り組んでいます。リハビリにおける歯科の果たすべき役割も年々変化していますので、将来的な展開を見据え、歯科診療室の全面リニューアルを進めました。

【相談室と各病棟面談室の全面リニューアル】

入院相談から入院期間中も患者さんやご家族にとっては様々な不安や心配事があるかと思えます。そのためには気軽に落ち着いて相談できる環境が必要ですので、その点を踏まえ、各室を全面リニューアルしました。

以上のとおり、主な箇所をご説明しましたが、今回の工事により病院全体の機能と療養環境の向上が図られたと考えておりますので、今後も当院の展開にご期待ください。

なお、工事完成までの残り期間、最後の引越し作業などで患者さんにはご不便をお掛け致しますが、何卒ご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

当施設が算定する「超強化型」老健について

介護老人保健施設シルバーケア敬愛 相談部主任 春日 正裕

平成30年の介護報酬改定において老健は大幅に見直されました。今までの3つの類型から、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価というものの新設とその評価の中で「超強化型」、「在宅強化型」、「加算型」、「基本型」、「その他型」の5つの類型に分かれました。

シルバーケア敬愛は、平成26年5月より在宅強化型老健として在宅復帰支援に力を注いでおりまして、今回の介護報酬改定を受けて、上記の5つから1番厳しい算定基準である『超強化型老健』を目指す事になり、おかげさまで4月から現在まで算定できております。今回は、当施設が算定する超強化型老健について簡単にご紹介させていただきます。

超強化型老健とは、下記の表に示します「在宅復帰・在宅療養支援等指標」において70点以上（最高値：90点）をクリアしている施設で、在宅強化型老健より更に在宅支援を強化している施設というイメージになります。しかし、今回新設された下記の指標を見ますと、要介護4・5の方、喀痰吸引が必要な方や経管栄養の方を多く受け入れをすると評価

されるようになり、在宅復帰に力を入れているだけではなく、より幅広い受け入れを行う事が求められてきたように思えます。またその他にも、退所時指導、地域貢献活動、充実したりハビリ（週3回以上）等厳しい算定要件をクリアする必要がある為、算定している施設の事を一部では、超をスーパーと呼び換え「スーパー老健」と呼んでいる方々もいる程です。当施設の9月実績は、要介護4・5の方が59.2%入所される中で、61.5%と高い在宅復帰率を確保しております。（下記の表参照）

私達は、この超強化型老健の算定を今後も継続していく事が、地域への社会貢献に必然的に繋がっていくと考えております。地域の中で、要介護状態でお困りの方を出来る限り受け入れ、在宅復帰が可能な方には全力で在宅復帰を支援、退所後は当施設の通所リハビリ・短期間のリハビリ強化型入所においてサポートさせていただき、これからも、地域の皆様には選ばれる老健を目指して日々精進していきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

〔在宅復帰・在宅療養支援等指標と当施設における9月の実績（□部分）〕

在宅復帰率	ベッド回転率	入所前後訪問	退所前後訪問	要介護4・5	吸引実施割合	経管栄養割合	居室サ-ビス	リハ職配置	相談員配置	合計
50%超 20点	10%以上 20点	30%以上 10点	30%以上 10点	50%以上 5点	10%以上 5点	10%以上 5点	3サ-ビス 5点	5人以上 5点	3人以上 5点	70点以上 超強化型算定
30%超 10点	5%以上 10点	10%以上 5点	10%以上 5点	35%以上 3点	5%以上 3点	5%以上 3点	2サ-ビス 3点	3人以上 3点	2人以上 3点	
61.5%	11.1%	39.9%	37.1%	59.2%	1.6%	5.5%	通所短期	6.16人	4.0人	
20点	20点	10点	10点	5点	0点	3点	3点	5点	5点	81点

編 集 手 帳

＊最近「評論家」という肩書でテレビなどに登場する人達がメッキリ減ったような気がします。「評論家」には何か無責任な、ご都合主義の行動が伴わない人というような悪い印象が芽生えたのでしょうか。私達の仲間内でも「あいつは評論家的だ」と評したとき、決して良い意味では使われておりません。

＊昨今のテレビの政治報道番組でも「評論家」は殆ど死語となり、コメンテーターとかジャーナリストとか専門家などの肩書で、誰が名付けたか知りませんが「進歩的文化人」と称される「左より＝政党支持で言えば左派系」の方の出演が多いと、ある会合で話題になりました。私も以前から、テレビ局は「左より」を好むものだなと感じていました。何か隠された意図があるのかなと勘ぐっておりました

が、この勘ぐりは私一人だけではありませんでした。大方の意見でした。

＊「左より」は意識してか、例えば、「国の有り様」を決定づける憲法改正について自分の考え方やその根拠を分かりやすく国民に示すことはありません。「自衛隊明記」にしても根幹に係わる議論は、我が国を取り巻く安全保障態勢、自衛隊のこれまでに果たしてきた役割等の全体像を押さえることが出発的条件かと思いますが、これを避け、情緒的に非難や反対を集中的・抽象的に繰り返すだけです。「戦争反対」などがよい例です。戦争をしたい国民は一人もいません。戦争のない国や戦争のない世界を作るためにはどうしたらよいのかを、特に、護憲派の左派系マスコミや左派系政党に是非とも教えていただきたいものです。

(理事長天草大陸)

当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



表紙のことば

昔の子供の遊びは、いつでも自然が相手でした。トンボ採り、赤マンマのごはん。松ボックリの花かごは野の花を差したものでした。

何十年か前、初めてシュロのバツタに出会いました。上野駅前で東南アジアの人が売っていました。もっと複雑な造りで、素晴らしい民芸品でした。誰にでもできるよう、簡単な造りにして、夏が来ると誰かを「キャァー！」と驚かせて楽しめます。手先を使うので、フレイル予防にもいいかも…。

(通所型サービスCを利用されていた齋藤光子様より)